

～高崎市地震防災マップ～
揺れやすさマップ
平成20年3月 高崎市

基本的な考え方

「揺れやすさマップ」は、以下の考え方に基づいて作成しています。

- 計算のための地区単位は200m四方ごと
- 実際に発生のおそれがあり、地域に大きな影響を及ぼす地震を想定
- 地表から数十m程度の深さまでの地盤の状況を反映して揺れ（地表の震度）の大きさを算定
- 地域の揺れやすさとして、起こり得る最大震度を200m四方ごとに表示

この地震防災マップは、内閣府「地震防災マップ作成技術資料」（平成17年3月発行）で示されている方法に従って作成されています。

この図で想定している地震



高崎市周辺には、大きい地震を発生させるような活断層として、高崎市の直下をとる「関東平野北西縁断層帯」の存在が知られています。この図は、高崎市で起こりうる最大の地震として、「関東平野北西縁断層帯」でマグニチュード8の地震が発生した場合を想定しています。国の詳しい調査結果によれば、この断層帯では、1万年以上の間隔で大きな地震を繰り返し発生してきたことがわかっています。この断層帯での以前の大きな地震は約6200年前～2500年前にあったようです。そのため、次に活動するのは数千年以上先になると予想されます。したがって、このような激しい揺れに見舞われる可能性は今のところ大きくありません。

なお、このような大規模でなくても地震はいつでもどこで発生してもおかしくありません。地震に対する備えを日頃から心がけてください。

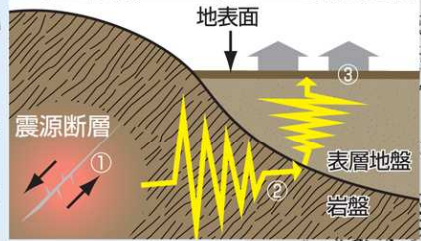
地震の揺れについて

地震の揺れは、

- ①震源断層で破壊が起こり、
- ②その破壊で生じた揺れが地下の岩盤を通じて地表付近の層に伝わり、
- ③表層地盤によって揺れが増幅され地表に伝わります。

揺れの大きさは、

- ・震源断層から地表付近までは、概ね震源断層からの距離に応じて減衰していきます。
- ・表層地盤では揺れの増幅の仕方が表層地盤の性状によってかなり異なります。一般的には、表層地盤が軟らかければ揺れは増幅しやすく、硬ければ増幅しにくい傾向があります。
- ・地形が大きく変化するような場所では、数十m離れただけでも揺れ方が大きく変わることがあります。



凡 例

震 度 階 級	震度 7	震度 6 強	震度 6 弱
人 間	揺れにほんろうされ、自分の意志で行動できない。	立っていることができず、はわないと動くことができない。	立っていることが困難になる。
屋 内 の 状 況	ほとんどの家具が大きく移動し、飛ぶものもある。	固定していない重い家具のほとんどが移動、転倒する。戸が外れて飛ぶことがある。	固定していない重い家具の多くが移動、転倒する。開かなくなるドアが多い。
屋 外 の 状 況	ほとんどの建物で、壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。補強されているブロック塀も破損するものがある。	多くの建物で、壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。補強されていないブロック塀のほとんどが崩れる。	かなりの建物で、壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。
木 造 建 物	耐震性の高い住宅でも、傾いたり、大きく破壊するものがある。	耐震性の低い住宅では、倒壊するものが多い。耐震性の高い住宅でも、壁や柱がかなり破損するものがある。	耐震性の低い住宅では、倒壊するものがある。耐震性の高い住宅でも、壁や柱が破損するものがある。

「この地図は、国土地理院発行の 20 万分の 1 地勢図を測量法第 29 条に基づく複製承認を得て複製したもの（平 19 関複 524 号）の一部を転載したものである。」

